

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohituji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：SRS株式会社
定 価：一部30円
2013年10月20日
第365号



ネコから学ぶもの
～インクルーシブな社会の実現～
支援センターわかぎ施設長 **古橋 誠**

支援センターわかぎの改築工事も着工から半年が過ぎ、建物の全様が見えてきました。現在は、鉄骨部分が建ち、屋根瓦をのせる基礎作業が進んでいるところで、完成は来年3月です。利用者や職員には仮設生活をお願いしており、随分と苦勞を掛けておりますが、新しい建物の完成を楽しみに無事に皆さんが入居できることを願っています。

来春完成する改築後の建物は、全面バリアフリーや利用者の完全個室化など、社会情勢に応じた設備はもちろん、利用者が快適に暮らせる空間づくりに心掛けました。

生活ゾーンでは、高齢化・重度化が進む中で小さな暮らしを維持しつつ、安全面を配慮することを意識しました。具体的には、小さな暮らしを支えるユニット構造は維持し、介助度合いの高い排泄や入浴などは、隣接のユニットと協力体制がとれる空間設定にしました。また、家庭らしい雰囲気を実現するために、2階建てにし、足腰が不自由になった時のことを考え、エレベーターを設置しました。

日中活動ゾーンは、施設本体と切り離し、障がいの重い方でも通う暮らしを提供したいと考えています。支援センタ

ーわかぎが永年大切にしてきた職住分離の考えを継承し、メリハリのある暮らしの中で、ご本人のエンパワメントを高めていきたいと思うのです。具体的には、現在仮設生活して利用している別棟や作業棟や隣接の活動スペースも含め、7つの活動拠点が出来上がります。利用できる人数はおおよそ100人程度可能でしょう。法人内の浜松地区にある通所事業も含め、活動内容によって様々な人がこの場所を利用し、日中活動の拠点になるよう計画を進めています。また、調理実習室は将来的に地域の方を含めた料理教室の開催、特殊浴槽は在宅重症児者への開放などもイメージしています。

管理ゾーンは、事務所・会議室・職員室・食堂・厨房などの必須設備に加え、宿泊室と地域交流室を設けました。宿泊室では、ご家族の方や実習生が利用いただけます。また、地域交流室では、地域の皆さまと合同イベントを行ったり、各種サークルへの貸出なども検討しています。

新しい建物は当然のことですが、障害者支援施設として入所者の暮らしの場です。と同時に地域の社会資源として、共生社会の拠点の役割も担っていきたいと思うのです。近年、福祉の世界では「インクルージョン」という言葉が飛び交っています。稲松理事長も度々つづえで紹介しておりますので、承知の方も多

いかと思います。インクルージョンという言葉が使われ始めたのは教育現場からです。障がい児と健常児と一緒に教育を受ける統合(総合)教育の思想が般化し、障がいのある人もない人もともに暮らす地域(社会)の理念に結びついていくように思います。

私もこの理念には賛同し、施設で暮らす人が地域の人たちとの結びつきが強くなれるよう願っています。ただ、現実的には一般の方々が施設に出入りすることは皆無でしょうし、もっと言うと近づき難いイメージの方が強いのではないのでしょうか。

表題の件です。ご近所の飼い猫がよく支援センターわかぎの駐車場にやってきます。子猫も生まれ、小さなネコも出入りし、近づいても逃げずに抱っこできる時もあります。ネコの立場からしてみると、自他の敷地分け隔てなく居心地の良い場所であれば、「ゴロニャン」と寝そべるのでしょうか。ネコはこの敷地が障がいのある人とかは関係ないのです。人間様もネコと同じように自由に出入りしてくださいとは申し上げにくいですが、地域の皆さまの目的で支援センターわかぎに足を運び、ここが居心地の良い空間で、また来たいと思える場所づくりができるよう努めていきたいと思うのです。そして、利用者も地域社会の一員として気兼ねなく身近な地域に出掛けられるよう願っています。

「地域で生きようくまのりゅう」

温心寮主任 白尾 早織

○三方原地区のケアホーム支援

三方原地区のケアホーム温心寮・ひだまり・あゆみホームでは今年度4月より、あゆみホームが根洗町から三方原町に移転新築し利用定員1名増を機に、利用者の皆さんがより快適な生活が送れるようにメンバーの再編を行いました。現在、各ホーム6名定員計18名が地域で生活をしています。

メンバーの再編のポイントは建物の住みやすさや人間関係、ご本人の希望など視点は様々ですが、メンバーも新たに新生活を始めて半年が経過しました。各ホームで利用者のみなさんがその人らしく暮らしていけるよう支援をしています。

三方原地区のケアホーム利用者は知的に重度の障がいをもつ方が多く、言葉でのコミュニケーションが難しい方もいますが、支援員の問いかけに対してそれぞれのアピール方法で想いを伝えてくれます。例えばお風呂に誘う声掛けに、気が乗れば「ハイ」気が乗っていないければ返事はしないといった方法で自分の気持ちを表現しながら入る順番を選択し

ていたり、帰宅後のティータイムに数種類用意されたおやつや飲み物から、自分で選んでいたり和生活のちよとした場面です。自ら選択するという経験を重ねています。食材(カレーのルーなどや乾麺)を持つてアピールされる方もいます。

その他にも雑誌や広告を見ながら支援員とやり取りし「食べたい・行きたい」と自分なりにアピールする姿を支援員が受け止め、夕食や休日の献立にして提供していたり、実際に個別外出で行く・見る・食べるなど、体験する。という経験も積み重ねています。

○個別支援の大切さ

昨年度、法人内生活支援部門のケアホーム学習会の中で、三方原地区・浜北地区ともに利用者さんそれぞれの「望む暮らし」について検討し、利用者さんにとって今必要な支援とは？を再考していく中で、個別の支援の必要性を改めて確認しました。そういった支援の方向性なのか、ホームごとの日常の生活の中で、より個別の支援を意識した関わりを行っています。

養護学校高等部を卒業し小羊学園児童寮から地域生活に移行して間もないころのトシロウさんは、外出時に感情が高ぶり、好みの雑誌やチラシがあると突発的に走っていくことがあり、当時の休日の外出支援はホーム単位での外出であったことから、主な外出先は近隣の施設のイベントでした。

トシロウさんは写真入りの雑誌が好きで、余暇時間によくそれらを眺めては支援員に指さしてアピールしています。最初はマッシュルームやアパートなど家に関する雑誌を好んでいた様子でしたが、提供する雑誌の種類を増やしていったことで、食べ物や動物などアピールも多岐にわたってゆきました。ケーキの写真が指さしているトシロウさんに、支援員が「ケーキ食べたいね。じゃあ、ケーキを食べに行こう」とケーキバイキングを計画し外出するとそこで食べたバウムクーヘンが気に入る、雑誌でバウムクーヘンを見かけると指さしてまたアピールするようになり「また食べたね」と会話を交わすうち、「バウムクーヘン」とトシロウさんも一緒に口に出して言うようになりました。

トシロウさんと雑誌を見ながら一緒に計画することで、トシロウさんの食べたい・行きたい気持ちを確認することができ、時にはトシロウさんの好きな利用者さんを誘ってナイトブー(浜松動物園

の夜間開園)外出を計画するなど、より本人の想いに沿った支援になり、満足感につながっているのではないのでしょうか。こうしたトシロウさんの想いを汲み取った個別外出を計画し経験を重ねるうちに落ち着いて楽しめるようになり、生活の幅が広がっています。支援員とのやり取りの時間が増えたことでコミュニケーションが図りやすくなり、洗濯物干しのお手伝いが積極的にに行えるようになり、雑誌を定期的に交換することや新しい雑誌の提供を保証することで古い雑誌の処分や私物の整理をスムーズに行えるようになり、欲しいものへの強引な行動も減るなど生活全体が落ち着きました。



また、個別支援の外出先は、店員さんや地域の皆さんとのコミュニケーションの機会でもあります。

日中活動の夏休み期間、お洒落をして一日外出に出掛けたユリコさん。午前



容院で、外出用のお洒落な洋服に美容師さんがすぐ気づき「ステキ！」とユリコさんに声を掛け、誉めて下さったそうです。最初は支援員を介してのやりとりが次第に支援員を介さず、自然と利用者さんと地域の皆さんとの直接のやりとりになっていくことがあります。

外出先に限らず、地域の方が夕勤パートとしてお手伝いに来てくださっているひだまりでは、好きなキャラクターの話でトオルさんと夕勤パートさんの話が盛り上がりつついたり、トオルさんの部屋でゆつくり写真を見ながら会話を楽しんでいたり、誕生日に夕勤さんからプレゼントを頂いたり、トオルさんを中心とした新たな人間関係が生まれていると感じます。トオルさんも夕勤さんの出勤を楽しみにしており、一緒にお出かけしたいとアピールすることもあります。そういったトオルさんの想いを出来る限り実現させたいと思っています。

○地域の中で広がる人間関係

以前つづえで紹介させて頂いた路線バスで他事業所へ通うハルエさんですが、4月にひだまりからあゆみホームへ生活の場所を移し、5月からは他事業所への通所が週3日から週5日になりました。また、三方原スクエアからバス停への送迎は地域支援の支援員が行っていますが、あゆみホームから三方原スクエアへは徒歩通勤を行っています。徒歩通勤については運動不足解消の目的もあり支援側からの発案ではありませんがハルエさんの「ひとりですく」という意欲も強く、バス停からの迎えの車で三方原スクエアを通り過ぎあゆみホームへ向かうと「違うもん」と三方原スクエアで下車し、自分で歩いて帰りたい気持ちを伝えてくれます。

ある日、いつものようにバス停へお迎えに行くと、ハルエさんがバスの運転手さんと話をしていたので、急いで車を寄せ「何かありましたか？」と尋ねると「一人で居たものだからね、話をしていたんだ。(運転中)僕がくしゃみをしたら『アイジヨウブ?』って声をかけてくれてね、優しい子だね」という思いもよらぬ運転手さんの返答に驚くとともに、ハルエさん自身が自ら築いている人間関係がそこにあるという事実がうれしさを感し、またハルエさんが確実に自立への道を進んでいることを確信しました。

ケアホームでの生活では一人一人の意

欲や想いを支援員が受け止め、それらを実現していくことでさらにその人の選択肢が広がり、その人を取り囲む人間関係が生まれてゆくことが正しく地域で生きることなのだと思います。その人らしく生活していくこと、その人を中心とした人間関係が多岐にわたること、より豊かな地域生活が送れるのだと思います。



10月1日にダイヤ改正があり、ハルエさんの利用するバスの時刻が変わることとなりました。それに伴い、通い先の事業所と出勤時間の調整やバス会社への連絡調整を行い、朝の出勤時はバス停まで車で送り、夕方はバス停からあゆみホームまで徒歩で帰るという取組を始めています。やはりハルエさんの一人ですく、という意欲は強く、バス停から歩

くことをご本人に伝えた時も快く受け入れられました。バス停から歩いて帰るようになり支援員が変更した二日目には迷う事なく自らバス停より歩き出していました。今は見守りが主な付添い支援となつていますが、自ら手を挙げて横断歩道を渡り、車の音が聞こえたら立ち止まるなど支援員に頼ることなく歩いていきます。今後、危険箇所を見極めながらより安全なルートを検討し、見守りなしへと段階を踏んで行くこととなりますが、道行く地域の皆さんにも積極的に「こんにちは」と声をかけて歩く姿に、ハルエさんを中心としたまた新たな人間関係が生まれる可能性を感じています。

来年度、根洗町(旧あゆみホーム)に、三方原地区4つ目のケアホーム「すずらん(定員6名)」が始まる予定です。これまでの3ホーム同様、利用者の皆さんがその人らしく地域生活を送ることができるよう、またその人を中心としたいくつもの人間関係が作られるよう、ひとりひとりの想いに寄り添った支援をしていきたいと思っています。



秋だ！ 祭りだ！ イベントだ！

爽やかな季節となった秋は、各施設イベントが目白押し。お祭りに旅行など、それぞれの事業所で行った催しを簡単に報告します。

三方原スクエア

各ユニット単位で二泊旅行に出掛けました。行先は、岐阜方面や温泉など、それぞれの楽しみに合わせて計画を立てました。

小羊デイケアホーム

10月中旬に秋の遠足、下旬には伊豆方面に二泊旅行を計画。楽しい思い出をいっぱい作ろうね！



温心寮

あゆみホームが10月初旬に富士山方面に二泊旅行。サファリパークや花鳥園へ行きました。

支援センターわかぎ

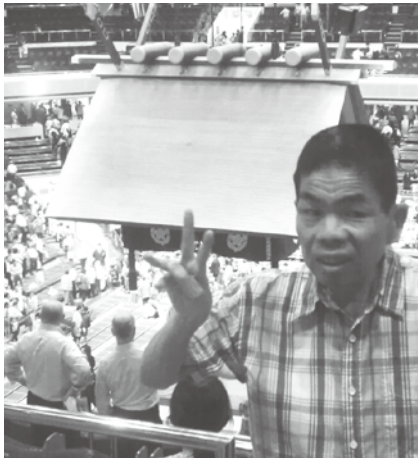
9月は猿投温泉に二泊旅行、岡崎にぶどう狩りにグループで出かけました。10月末には、大阪への旅行も計画中。

オリブの樹

9月14日にはオリブ祭りを開催。フリーマーケットや模擬店が盛況。出世大名家康くんも来場し、みんなから黄色い声援が送られました。

ひまわり

個人旅行でMさんが二泊三日で信州の旅。旅先で思いがけずマルカートのメンバーと遭遇？んん、世の中狭い。Eさんは両国国技館に大相撲観戦！



マルカート

9月に2グループに分かれて信州方面に二泊旅行。ラッキョウの植え付け作業もポチポチ始まります。

つばさ静岡

フェスタつばさを9月末に行いました。スンプレンジャーや和太鼓演奏、盛況のフリーマーケットなど盛りだくさんでした。また、少人数で東京デイズニールンドの旅にも出かけました。



※浜松地区では、第5回小羊ふれあい運動会が10月11日に行われました。詳細は次号特集記事でご報告します。

浜松市障がい者相談支援センター

浜松南がスタート

浜松市南区にある相談支援事業所「アゲネスみなみ」と医療法人好生会が運営する相談支援事業所「はまかぜ」が、10月1日より、浜松市モデル事業「相談支援センター浜松南」としてアンサンブル江之島1階に開設しました。相談内容によって、相談支援事業所の変更をお願いするような事例も、互いの事業所がデスクを並べることで、迅速な対応ができ、また関係機関との連携も強化されると期待しています。

小羊学園を支える会

2013年度寄付金報告

8月受付分 214,721円 (29件)
累計 1,893,870円 (173件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

編集後記

支援センターわかぎの定礎式が間もなく行われる。定礎盤には「愛によって互いに仕えなさい」(ガラテヤの信徒への手紙5章13節)の聖句が刻まれる。この聖句は稲松理事長が、キリストの愛の恵みによって生かされる私たちに、且つ福祉従事者として社会的弱者を支える立場として常に心に持つことを祈り選ばれた。翻訳で「愛によって」「愛をもって」と違いはあるようだが、小羊学園で働く職員、また利用者、キリストの愛によって満たされ、自らの愛のよって互いを支えあえるよう祈り願いたい。

秋も深まり始めました。どうぞ皆さまお身体ご自愛ください。(F)